

平成30年度 学校経営計画に係る自己評価計画書（案）

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 地域の食や農業、環境問題に積極的にに関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深めるために講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	昨年度のアンケート調査で「里山里海保全の大切さが理解できた」と答えた生徒の割合は66%とB評価の70%を超えることができなかった。今年度、全生徒が参加する講演会等を設定しさらなる意識の向上に努めていく。	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	昨年度のアンケート調査で「校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合が69%とC評価となった。改善のため、マナー清掃や特別清掃の取り組みで委員会の生徒だけでなく全生徒に関りをもたせていく。	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
2 学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢や基礎学力を身につける。	教務課 各年次 各教科	昨年度のアンケート調査では「基礎学力が身についた」と答えた生徒の割合は69%であった。社会で必要とされる学力の向上のため、3年間を見通した学習を自立的に計画・実行できるように進めていきたい。	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に組み込み、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 多忙化改善に向けた取り組みを進める中においても、生徒の授業評価や研究授業及び互見授業を通して、授業の工夫・改善を図り、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	昨年度のアンケート調査では「授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は54%であった。協働的な学習等の推進や互見授業の積極的な活用により、一層の授業改善に取り組む必要がある。	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	③ 3年間を見通し、各年次に応じた計画的・自律的な学習を行い、進路実現のための意欲や目的が明確な生徒を育成する。	進路指導課 各年次 各学科	就職や進学で高みを目指す生徒の数がやや少ない現状にある。思考力・判断力を育む学習指導をより一層進め自己肯定感あるタフな生徒を育成したい。	【成果指標】 基礎力診断テストで、学習到達ゾーンB3以上の生徒が増加している。	G T ZがB3以上の生徒数が A 15人以上 B 10人以上、15人未満 C 5人以上、10人未満 D 5人未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	進路指導課による集計

平成30年度 学校経営計画に係る自己評価計画書（案）

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	① 生徒が自発的に挨拶を行うように、授業や登校指導において挨拶の指導を行う。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度のアンケート調査では「自発的に挨拶ができた」と答えた生徒の割合は70%で、例年並みの数値であった。学校行事やST等で全職員一丸となった粘り強い挨拶指導が必要である。	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができた生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	遅刻数が増加傾向にあるなど、近年、基本的な生活習慣が確立されていない生徒が見られる。登校指導や無遅刻月間の取り組みの強化により指導の徹底を図っていく。併せて集会等で時間を守る重要性についての指導も実施する。	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身に付いたと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	③ 集会・HRなどにおいて「あり方・生き方」についての学習に取り組み、他者への敬愛と協力を尊重する態度を育てる。	生徒指導課 全教職員 各年次	他者への理解やそれを尊重する態度が十分育っていないが為のトラブルがいくつか見られる。学校全体で他者理解や敬愛・協力の態度を地道に育成する必要がある。	【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。	どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないとの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合が A 3%未満 B 3%以上5%未満 C 5%以上7%未満 D 7%以上	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課により実施する、アンケートによる集計
4 タイムマネジメントに基づき、能率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	① ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	昨年度のアンケート調査で「部や研究会活動に積極的に活動している」と答えた生徒の割合は66%で、一昨年度とほぼ同程度のやや低い数値となった。顧問、部員の多忙化もあるが、活性化しつつある部活動の維持のため、今年度は部員のメンタル面での強化を図っていく。	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 農業クラブ活動の活性化を図り、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	昨年度は43年ぶりに全国大会・プロジェクト発表で最優秀賞に輝き大きな成果を上げることができた。今年度も地域の農業レベルの向上や活性化に向かってさらに努力する。	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 7名以上 D 学校卒の6名のみ	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	全国大会の出場者数を確認。
	③ 統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	昨年度の時間外勤務時間の数値を見る限り、本校では過度な時間外勤務とはなっていない。今年度グローバルGAP認証等の新規事業の導入がなされても、適切な時間外勤務平均値となるように努力する。	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	県の時間外勤務時間平均値(53.1)時間を下回る職員の割合 A 75%以上 B 60%以上75%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満	C、Dの場合は取組、方策を再検討	時間外勤務調査の結果を集計